

第2回 宝塚市新ごみ処理施設整備基本計画検討委員会
議事録

【日時】平成28年3月1日(火) 午後15時00分～午後17時00分

【場所】宝塚市クリーンセンター 3階会議室

【出席者】委員：

No.	氏名	役職等	備考
1	わたなべ のぶひさ 渡辺 信久	大阪工業大学工学部環境工学科教授	委員長
2	なかの かづこ 中野 加都子	甲南女子大学人間科学部生活環境学科教授	副委員長
3	くろさか のりこ 黒坂 則子	同志社大学法学部法律学科教授	
4	たかなみ りょうへい 高浪 龍平	大阪産業大学工学部都市創造工学科助手	
5	くぼ た ひさお 久保田 久男	宝塚市自治会連合会	
6	いけだ たかゆき 池田 隆之	宝塚市自治会ネットワーク会議	
8	ひもと じゅんこ 緋本 順子	NPO 法人 消費者協会宝塚	
9	たかはし あやこ 高橋 章子	男女共同参画センター連絡協議会	
10	やすだ としお 安田 寿夫	公募市民	
11	なかたに おさむ 中谷 修	公募市民	
12	いのうえ ひでお 井上 秀雄	公募市民	
13	にしうち よしあき 西内 義昭	公募市民	

事務局：(宝塚市環境部) 酒井部長

(宝塚市クリーンセンター) 影山所長

(宝塚市環境部クリーンセンター管理課) 井上課長、久根参与、肥田副課長
下坂係長

(パシフィックコンサルタンツ株式会社) 山崎

【欠席者】委員：

7	ひだか やすひろ 日高 泰洋	クリーンセンター周辺協議会	
---	-------------------	---------------	--

【配布資料】

- ・ 委員会次第(本紙)
- ・ 市民アンケートについて.....資料-1-1~5
- ・ 計画条件の整理について.....資料-2
- ・ 新ごみ処理施設整備基本計画検討委員会開催スケジュール.....資料-3

1 開会挨拶

事務局： 本日はお忙しいところ、第2回宝塚市新ごみ処理施設整備基本計画検討委員会にご参集いただきましてまことにありがとうございます。

それではまず、宝塚市新ごみ処理施設整備基本計画検討委員会規則第5条第2項の規定により、本日の会議の成立についてご報告申し上げます。検討委員会委員13名のうち、現在12名の方にご出席いただいておりますので、この会議は成立しております。

また同じく規則第5条第1項の規定により会議の議長は会長にお願いすることになっております。合わせて、当審議会は、宝塚市情報公開条例第24条第3項により公開することとなっております。

それでは、委員長、委員会の進行をよろしくお願いいたします。

2 議事

委員長： まず、傍聴の方は今日はいらっしゃっていますか。

事務局： はい。1名おられます。

委員長： では、傍聴要領をお渡しいただいて、入っていただきたいと思います。今日の議事録署名人であります、二人の委員にお願いします。

(1) 市民アンケートの内容協議

委員長： では、議題1「市民アンケート」に関して、事務局から資料等の説明をお願いします。

事務局： (資料-1-1~5の説明)

委員長： ありがとうございます。最初にご説明がありましたとおり、これは市が行うアンケートであります。それから、調査対象は市域全体から平均的に、かつ無作為に、人口に見合うように地域ごとで取る。今のところは小学校の校区単位でお考えであり、男女の比ですとか、あるいは1世帯1名となるよう配布する。1世帯2名当たることというのはあるのでしょうか？

事務局： 恐らくないかと思えます。

委員長： もしあった場合にははじこうということですね。ということで、平均的なことを考えていらっしゃる。

質問的な補足ですが、アンケート結果の開示はどうされますか。

事務局： アンケートの開示の時期については、委員会でご報告をした後、議事録をホームページで公開する際に配布資料を付けていますので、そこでまずは出てきます。それ以前に早く出した方がいいかどうか等、タイミングも含めて判断していきたいと思います。

委員長： 皆様からご意見をいただきたいと思います。

H委員： アンケートは各家庭の世帯主に出されますね。実際に書くのはその中の「ごみ担当」の方が書かれると思うんです。結局個人対象にしてアンケートを取っているのではなくて、それぞれの家庭を対象にしてアンケートを見ることになると思うんです。個人で何歳、男性、女性と返ってきてても、その家庭のアンケートになるのではないかと思います。

事務局： 単身者の方もいらっしゃいますので、1つの世帯の方を選んでいくというような形にさせてもらいたいとは思っています。実際回答されるときには、ご家族である程度相談された上でということは考えられますが、ただ、どなたかを抽出しないことには送れませんので、そういう意味で20歳以上の一人一人という形にしています。

K委員： 事務局への確認とお願いです。配布資料の資料-1-2、ごみ事業に係る費用について支出と事業収入の差額は21億円とありますが、これは市の歳出の何%を占めるのかということを書いた方がよろしいのではないのでしょうか。もう1点、同じところの上から3行目、「現在ごみは10分別で収集し、経費等をかけてできる限り資源化しています」とありますが、経費以外に何かあるのかと捉える方もおられるかもしれませんので、「経費をかけてできる限り行い、資源物売却益を得ております」と変えてはいかがでしょうか。21億の歳出はあるが、できるだけ資源化を図ることで売却益を得る努力をしていることを書いた方がいいのではないのでしょうか。もう1点、費用の事例について、寝屋川市を挙げておりますが、どのような方式なのか等を書いた方がいいのではないのでしょうか。

委員長： 1つ目の市の歳出の何%というのは、もっともな話に私も感じました。これは結構大きいですね。

事務局： 歳出の財源は税収だけではなく、国庫補助金や県の補助金等も含まれますので、入るとすれば、税収の何%かを書く方がわかりやすくなるのかと思います。

委員長： 感覚的にわかるという意味ですね。あるいは人口一人当たりいくらでもいいですね。1人1年当たりいくらでも構わないですが。

K委員： ごみ処理にかかっている費用を認識いただいた上で、回答をいただきたいという趣旨です。

委員長： 次の「経費等をかけて…」という文章は、確かに少し違和感がありますので、これは再考したほうがいいですね。

H委員： 「経費等をかけて」というのを削除してしてはどうですか。

委員長： 売却益は多分そんなに大きくないので、ここで言わんとしているのは、リサイクルするために、今多めにお金を使っているけれども、これで果たしていいのだろうかというのは市役所側にも迷いがある、そういう表現だといいかと思います。次に、建設費の事例として挙げている113億円ですが、確かにこれは処理方式によって違うのですが、多くの方はあまり興味がないのではないかととも思います。113億は、今やってもこんな金額ですか。

事務局： そうです。

委員長： これは事業費が昔は安かったのが、今高くなっているんです。金額は、ここで書かなければいけないのでしょうか。

事務局： 我々としては、一番上の段に数百億円必要と書いていますが、目安的に近隣市で最近の事例である寝屋川市の例を挙げたほうがイメージしやすいかと思って書かせていただきました。

委員長： ほか、いかがでしょうか。

K委員： アンケートについて、内容的にはよろしいかと思いますが、1つ追加設問をお願いできればと思います。

アンケートのP.3「3 ごみ分別・収集」の中への追加として、1つ目、「ごみ袋の使用状況」というところで伺ってはいかがかと思います。所帯人数に対して、どのぐらいの大きさのごみ袋をお使いか。これを訪ねる目的としては、ごみの量に対して適切な袋が使われているのかどうか。もう1点、世帯人数から見たごみの排出量の概要が知れる。これが目的です。

追加の2点目、ごみの減量やリサイクルの取り組みについての状況を尋ねてはいかがでしょうか。目的は、3Rの取り組みについての意識調査です。

追加の3項目、ごみの有料化についてどのようにお考えになっておられるのかを

尋ねてはいかがでしょうか。設問 1、ごみ処理費用の負担に関する考え方。設問 2、ごみ処理手数料の有料化を導入するとした場合の配慮。設問 3、ごみ手数料の有料化を導入した場合の配慮が十分に行われたとした場合、あなたは 1 家庭においていくぐらいだったらご負担いただけるでしょうか。この 3 点です。

委員長： ありがとうございます。

C委員： 今の意見に対しての反対意見です。有料化については、このアンケートで出すべき設問ではないかと思います。有料化ありきではなく、できるだけ少なくごみを出すようにしなければなりませんし、どうしても出てしまうものについては、行政のサービスとして、無料でやってほしいわけです。有料化について聞くことで、アンケートに回答してもらえなくなるのではないかと思います。それと、ごみ袋の種類、これは個人ではわからないかと思います。スーパーの袋、レジ袋などたくさん種類ありますから。これも、アンケートがあまりにも細かいことで、回答してもらえなくなるのではないかと思います。

委員長： アンケートを作るときには、追加していくと長くなって答える側が面倒になるというのは確かにおっしゃるとおりかと思います。有料化のことは、触れない方がよいのではというご意見がございました。

I委員： 今回は新しい施設のためのアンケートですね。今ご意見出たようなアンケートも必要なときはあるのですが、今回はあまり広げすぎると大変かなという気がします。

委員長： 有料化の件については、お気持ちはわかるのですが、アンケートの回収状況にも影響するというのは確かにございます。答えたくないと思われるかもしれません。これは気をつけないといけませんね。

C委員： せっかくアンケートをするので、まともに回答をしてもらえるようにしていただきたいと思います

K委員： はい、取り下げます。すみません。

委員長： 申し訳ない。後でも何なりといろいろ指摘して下さるようお願いいたします。ちょっとした間違いでも、こういった場合は重要なことだと思いますので、ご指摘いただければと思います。私から 1 つ、「発泡トレイ」がピストルを撃つ方の「発砲」になっていますので、修正してください。

- C委員： アンケートで（2）の選択肢の8番、「汚い・臭い施設だというイメージ」、これは、現在ではそのように思われることもないかと思うので、外されてはいかがでしょうか。今はきれいな建物だというのは外観からも見てわかっていますので。
- G委員： 同じところでよろしいですか。13番、「たくさんの税金を使う無駄な施設だというイメージ」、すごく過激な書き方なので、表現を変えてはいかがかと思います。
- C委員： 衛生的にするために、無駄な施設ではないですからね。
- G委員： 市が市民に対してすることのうち、ごみを処理するというのはものすごく大事な要素ですよ。先ほども税収の何%を使っているかという話が出ていましたが、大事な部分なのにそういう言い方をしてしまうと、危険な感じがします。
- I委員： 今のお話ですが、私はやはりクリーンセンターの費用と言ったら個人的には莫大な費用だと思っているんです。だからこそ、市民が憩えるような場も作りますよとか、そういう方向に発展させるべきじゃないかと思います。
- H委員： 「無駄な」という書き方をするかどうかですね。
- G委員： その言葉があると、市は無駄なことをやっていると思われるとかわらないかと。
- 委員長： もっと合理化できるだろうという表現でもいいですね。
- G委員： 市としては、やっぱりいいものを作りたい。市民が喜ぶものを作りたい。そういう思いをアンケートに出していくというのは大事なことでないかなと思うんです。だから、言葉をもう少し変えた方がいいかと思います。
- K委員： この種の施設というのは一般的に迷惑施設と見られることが多いので、その辺を探ってみたいという思いもあります。どこまで迷惑なのか。そういう意識をどれだけお持ちなのかなという。これがマイナスイメージの選択肢でうかがえるのではないかという気がします。
- C委員： 施設はきれいですが、パッカー車が入り込みますから、それを見ただけでも悪いイメージが湧きますからね。
- 委員長： 8番の「汚い・臭い」というところにその思いを入れたらいいですね。現在は確かに汚い・臭いのはあまり外にはわからない。でも中はやっぱり臭いもします。
- K委員： 今おっしゃったように、むしろ騒音とか通行量が多くなるとか、迷惑だという思

いがどこまであるかです。

I 委員： ここにおられるメンバーはある程度知識があって、当然宝塚のクリーンセンター以外にも見学されたり、あるいはいろんな情報を持っておられる人が大半なんです。しかし、市民の大半は宝塚のクリーンセンターの中を知らないのではないかと思います。私は、個人的には今の宝塚のクリーンセンターはいまいちだと思っています。一市民としても気にはなっています。アンケートのマイナスイメージの部分について、言葉を考えるのは別として、ここで特にプラスの方に誘導するような必要は全然ないのではないかと私は思うのですが。

事務局： 事務局としては、1つ上の設問で、こういう廃棄物処理施設に行ったことがありますか。特に宝塚の施設は行ったことがありますかと聞いているのと、行ったことがないという選択肢がございます。

こういう施設を見たことがない人のイメージというのは、K委員が言われたように嫌悪施設であるとか、迷惑施設というイメージをお持ちの方がまだたくさんおられるのではないかと。その辺も知りたい。知っていただければそうでもないよというのがわかっただけだと思うので、我々としてはPRをもっとしなければいけないということになります。

この1つ上の設問と、持っているイメージの設問をクロス集計することで、ある程度ここで浮き彫りになってくるような思いでアンケートを作らせていただいていますので、良いイメージと悪いイメージと両方書かせていただいています。

委員長： 言葉については、「汚い・臭い」は今どきでは使う言葉ではないので、少しここは直させていただきたい。それから、「無駄」という言葉も「さらに合理的に」とか、そういうような表現にしたいと思います。

今プラスイメージが全部で7つ、マイナスイメージが6つあって、この個数はそんなにアンフェアではないので、これでもいいかなと思います。

一番上の「あなたはごみ処理施設を訪れた」、これは「ごみ処理施設を」ですね。それから、次の選択肢で、「宝塚市クリーンセンターを訪れたことがある」と書いてあって、宝塚市クリーンセンターがごみ処理施設であるかどうかは、人によってこれはごみ処理施設と読まない人もいますので、文章上は「宝塚市クリーンセンター」と「を」の間に「(ごみ処理施設)」と入れてもらえますか。

あと、いかがでしょうか。

H委員： 別のところでいいですか。次のページの2の(1)ですが、8つのうちの上位2つに〇をつけてくださいと書いてあるのですが、私、〇をつけたら5つぐらいつけてしまうんです。2つというのは少ないように思います。3つか4つぐらいにされてもいいのではないかと思います。

委員長： 確かに2つで、4つぐらい〇をつける方もいますので、基本構想の概要版では方針6までありますよね。だから、確かに2つに絞れないかもしれないですね。

H委員： 最も優先順位をつけてこの2つを取り出してということも考えられないことはないのですが、つける方にしたらちょっと考えてしまうと思うのですが。それから、4ページにいろいろな分別のことが出ていますが、「捨てる時」というのは「処分するとき」とか、言葉を変えたほうがいい気がします。

委員長： そうですね。

H委員： それから、また、2ページ目の(3)の3行目「燃やすごみに入れるのではなく分別していただき」、「いただき」というのは要らないと思います。

委員長： 市民向けに変にへりくだる必要はないですね。
ペットボトルなどを「捨てる時は」という所は、資源なので「捨ててるのではない」というご意見は必ずありますので、これも修正した方がよいと思います。スプレー缶はどうでしょうか。カセットボンベ、スプレー缶、穴を開けて出す。大体こういうときに設問に入れるのですが、今回はないのですか。

事務局： 項目として1つスプレー缶を挙げるということでしょうか。

委員長： 結構世の中で問題になるので。穴を開けなくていいというのは、環境省からの通達だったでしょうか。

事務局： 通達ではそういう指導をしないようにとされています。お年寄りなど、開けることで事故につながる事例が出てきましたので。昔は、穴を開けるようお願いしたり、穴を開ける道具を配ったりしたこともあったのですが、今は穴を開けずに、使い切ってくださいとお願いしています。

スプレー缶については、今はキャップを反対にしたら抜けたり、コインを差し込んだら抜けたりする構造になってきていまして、業界としてもそういう動きも出てきています。

爆発して火事になりやすいのがカセットボンベなのですが、あれは相変わらず昔のままです。我々としても使い切ってくださいとお願いしていますが、どうしても使い切れずに、震災などでたくさん出てきたり、底の方が錆びて使うのも怖いと言われる方もおられたりしますので、そういう場合は直接クリーンセンターにお持ちいただいたら処分させていただきますという案内をしています。

委員長： 微妙すぎてここの一覧には書けないんですね。

- 事務局： はい、だいぶ説明を書かないといけなくなるかと思います。
- I委員： ただ、ここに持ち込むことが不可能な人がたくさんいますよね。
- 事務局： その辺が、今回のアンケートの5ページの「不適物で困っていませんか」というところで自由記述もあるので、書いていただいてもいいのかなと思っています。
- K委員： 設問の4ページ目、「リサイクルショップや民間の回収業者に出す」というケースはあるのでしょうか。
- 事務局： ここにつきましては、衣類はリサイクルショップに出すことがあるかと思うのですが、紙に関しましては民間の回収業者に出すことがあるかと思います。これを分けると項目が9になるということがありまして1つにさせてもらっています。
- H委員： 自治会の回収とかそういうことですか。
- 事務局： 自治会の回収でしたら「6 集団回収に出す」になります。個人で民間の古紙回収業者に出されているケースもあるかと思います。
- K委員： 回答者が迷うようなことではないということですね。
- 委員長： 8番は「民間の回収業者に出す」だけでいいのではないですか。
- I委員： そう思います。
- G委員： そのほうがわかりやすい。
- 事務局： わかりました。
- J委員： すみません、先程質問のあった「上位2つ」というのは少なすぎるのではないかということについては、いかがでしょうか。
- 事務局： これについては、迷っておりますのが、ある程度絞り込んでいただいたほうが、集計したときに傾向が浮かび上がりやすいのではないかと思います。
- J委員： 他にも2つに○を付ける設問がありますよね。例えば○が3つ付いていたら、無効にするとか、1つだったら足りないとか、そういう解釈をされるのでしょうか。

事務局： 2 つに絞り込んでくださいという設問で 3 つ 4 つ 〇があると、優先順位が事務局では判断しかねますので、その場合には無効という扱いになるのではと思います。ただ、1 つしか 〇がなければ、それはそれで 1 つしかなかったという判断で有効にさせてもらえるかなと思います。

2 の (1) で 3 つ 4 つに 〇を付けてもよいとした場合に、結果がぼやけてしまうのか、ぼやけないのか、判断を今考えているところです。

委員長： それだったら、どうせ計算機を使うのだったら、4 つ以内にせいといって、3 つつけてきたら、それを 4/3 倍したらいいんです。

事務局： ここは、これもつけたい、あれもつけたいという思いが出てくる場所なので、どこにポイントを置いているのかというのがわかりにくくなるのではないかと、懸念しまして、数をできるだけ絞っておりますが、今いただいたご意見も踏まえて、検討させていただきます。

J 委員： それと、設問や選択肢で、「。」をつけて文章を終わらせているのと、「。」がついていないのがあるのですが。

事務局： 統一いたします。

F 委員： アンケートの 1 ページの (2)、ごみ処理施設のイメージですが、いい面があれば、反対に悪い面があるということはあると思うのですが、9 番については「など」がどこにあるかということで印象が全然違うと思います。「災害時に事故が起きるなど」となると、災害時には事故が起きるのは 1 つのまとめになるような気がしますので、「災害時などに事故が起きることがある危ない施設」とかいう文の方がいいかと思います。そうでないと、3 番の「災害時でもエネルギー供給ができる」というのと内容が矛盾するような気がしました。

13 番ですが、「無駄な施設」という表現が引っ掛かるというのは私も思うのですが、一見無駄と思われるような敷地を必要とする施設というか、場所もかなり広く必要だと思うのですが、きちきちには建てられない。そのことにちょっと触れていないので、そういう選択肢を入れてはいかがかと思いました。

委員長： 1 つ目の「災害時に事故が起きるなど」、これは別に災害がなくても、事故が起きることがありますよね。

I 委員： 「災害」という言葉はわざわざ要らないのではないか。

委員長： 9 番目の「災害」という言葉は消しましょう。

それから、2つ目は、スペースが広いという話ですね。敷地面積が広すぎるのではないかというイメージの選択肢ですよ。プラス要因が7つで、マイナス要因が6つなので、1つぐらいマイナスを足してもいいかなと私は思っています。

副委員長： 「広い敷地を占有する施設」とか、そういう表現だとどうですか。
14番目に、「特に不快なイメージを持っていない」という選択肢がありますが、16番に「特にない」というのもあるので、14番は先ほどの「広い敷地を占有しがちな施設である」とか、そういう選択肢に変えた方がいいかと思います。

委員長： 先ほど、〇の個数についての話がありましたが、この設問は「すべて」になるんですよ。

副委員長： これは制限した方がいい気もしますね。ある程度絞って答えてほしいというのがあるから。

D委員： 2つぐらいでいいのではないですか。あまり設問にたくさん〇をすると、全部つけたくなる。

I委員： 逆に、すべてに〇をつけるというアンケートにされた理由を聞いたほうが我々は理解しやすいかなと。なぜここだけ「すべてに」ということになったか。

K委員： 事務局にお尋ねしたいのですが、内容がともかく、2個か3個かということについては、統計学上のそういうツールで決まっているのでしょうか。

事務局： こちらが作りましたときの意図としては、まずイメージについての(2)が「すべて」にしていますのは、できるだけ多くの声を聞きたかったという思いがあります。実際市民の方々がどういうイメージを持っているのかというのをできるだけ多く拾いたかったというのがまずあります。

それ以降の設問で、2つにしていたり、1つにしていたりするのは、できるだけ優先順位をつけたいという思いがありました。特に優先順位を決めたいものに関しては1つと絞り込んでもらうようにしています。施設の場所については2つにしているのですが、ここも本来は1つにしたいぐらいでしたが、用地のことは難しいところもありますし、いろんな思いをお持ちだろうということで最低2つまでにさせていただきたいという思いで作らせていただいています。

委員長： 1ページの「どのようなイメージを持っていますか」も2つでいいのではないかと、そういった意見もありますね。実際に集計するとき、3つ〇をつけてきた場合どうするかという話もあるわけです。

事務局： 今回するかどうかは別ですが、一般的には、返ってきた回答票のチェックをするときに2つのところに3つ入っていたら、ランダムで1つ消したりということをやっています。事務局側で何の意図もなく消してもらうということです。無効票にするという場合もあります。

委員長： どうせ計算機を使うのだから、3つ〇をつけたら2/3につけてもらってもいい。

事務局： 点数方式にするという方法もあります。ただ、集計した結果が、例えば「10.3人」とか、小数点以下が出るような結果になってしまうのが気持ち悪いなというところがあります。

副委員長： 今回は一般的な市民の意識調査ではないんですよ。新しい施設を作るに当たって聞いているわけなので、よりクリアに答えが出てきたほうがいいので、2つか3つに制限を加えたほうがいいのではないかと私は思います。

委員長： これは多数決するものではありませんが、どうですか。いくつでも〇をつけてもいいというのと、絞ったほうがいい、もう少しご意見をいただけますか。

F委員： (2)はイメージを持っているかということなので、たくさん〇があってもそれだけその人がイメージを持っているということでもいいのではないかと思います。こういうことを希望するとか、これが一番大事とか、そういう内容のものではないのかなと思います。ここでマイナスの質問をたくさん選んだ方が出てきたら、そこをしっかりと説明していくというように、活かしていかれたらどうかと思います。

K委員： 賛成です。

委員長： では1ページ目の(2)はこのままで行きましょうか。文言の修正はありますが。

(2) 計画条件の整理

委員長： では、次をお願いします。

事務局： (資料-2の説明)

委員長： すごい量ですね。今日は審議としてどこまでやるかですが、これは現在のごみのいろいろな種類の処理方法について一定の解説を加えた後に、今後の収集区分、それから処理の方法についてざっと全体像を話していただいたわけです。

基本的にはごみを出す側、排出側の利便性と、それからリサイクルして資源として活用できるものをなるべく多くしたいということと、コスト面、運用面で無理のない持続可能なことをしたいという、そういうことで少しずつ変えていこうとしていることは読み取れると思います。

今日ポイントの部分だけ話して終わりとはならないという内容ですので、今日は理解を少しでも深めるための質問ぐらいがあったらいいかなと思うのですが。まだこれは次回もやるんですよ。

事務局： はい。

K委員： 7 ページ、3 番の回収可能エネルギーの活用の平常時、上から 3 行目、「可能な限り電力に変換する高効率発電を考えています」、これは「高効率ごみ発電施設」ということでいいのでしょうか。

事務局： 交付金のメニューをご覧ですか。

K委員： はい。

事務局： 高効率ごみ発電というメニューが 25 年で終わりました、今、エネルギー回収推進施設という形の中で統合されているという形になっているかと思います。ここで使っている「高効率」は、要は発電の効率をどうやって高めるかという、なるべく高効率という意味で使わせてもらっています。

K委員： 要はエネルギー回収推進施設の中でということに括られてきたわけですね。

事務局： はい。

K委員： その場合は、発電効率、または熱回収が 10%以上でありますよという要件を満たさなければいけないと。

事務局： 規模によって違うのですが、高効率の場合はもう少し高いかと思います。我々としては電気が一番使いやすいだろうと思っていまして、このエネルギーを第一義として電気に置き換えれば一番いいだろう、そういう思いで書かせていただいています。交付金の要件のパーセントは極力クリアして、たくさん交付金を受けられるようにしていきたいと思っています

K委員： ぜひともよろしく願いいたします。

もう 1 点あります。8 ページの 4 番、既存施設との関連性について、緑のリサイクルセンターの中の末尾で「チップ化だけでなく、その他の利用方法」、要は

今 2.5cm でチップ化しているものをもう少し流用したいですよねということですね。

事務局： 今はほとんど全部堆肥、ファイバーチップといって粉々にしています。それだと、今度はバイオマス燃料としては使えないと言われていきますので、その辺も考えながらどういう形がいいのかを検討して、一番有効な形に持っていきたい。

K委員： それに関して私はバイオマス燃料としてのペレットということで内容を調べました。そうしましたら、ペレットにするためには規制がありまして、これは規格があります。

委員長： そうしましたら、次回、既存施設との関連性についてのところについて補足いただければと思います。

副委員長： 質問をよろしいでしょうか。今のご説明の資料の4ページの2で、「新ごみ処理施設の対象ごみ種について」と書いてありますね。それで、書き方は全部「以下のごみ種を対象とします」と言い切っております。もう決まっているのかという感じがするんです。そもそも分別とかの話はすごく重要な話で、宝塚市廃棄物減量等推進審議会というのがあって、それに諮問して答えをもらわないといけないような大きな問題ですよ。この委員会で何を議論されるのかとかいうか、位置づけがよくわからないのですが。

事務局： 表現のところはどうしたものかということではあったんです。とりあえず事務局の案としてはこういうことを今考えておりますということで、「これを対象とします」という表現を使わせてもらいましたが、これについては、たたき台として使っていただきたいと思っています。

それともう一つ、減量等推進審議会との関係については、本来でしたら一般廃棄物処理基本計画の中で分別などを決めていくのですが、策定から5年後の見直しももう少し先であるということもあり、まず施設を作る上で最適なものをこの委員会で決めていただいて、それを減量等推進審議会のほうへフィードバックするようにしたいと考えています。

副委員長： でも、これは検討委員会でしょう。向こうは審議会ですよ。

事務局： 条例上は審議会という、同じ位置づけにはなっています。

副委員長： だけど、ここは施設整備基本計画のほうでやっているわけで、行政目的が違うのではないかとということですね。

それと、私が拝見したような誤解を受けてしまうので、例えば「案」とか書いて

おかないと誤解を受ける可能性があると思います。

A委員： 同じようなことで、「案」ということだったらわかるのですが、思いが結構入っておられますので、アンケートに戻って恐縮ですが、例えばアンケートの2の(2)とか(3)に関しては、同じようないくつかの並列の答えがあるのではなくて、4つの選択肢が段階的に並んでいます。この場合、2か3を選ぶ可能性が高くなると思います。

特に2の(2)の質問などだと「日本一優れた」と書いてあるので、日本一はちょっと厳しいかなと思う方が多いのではないかと。一般的な考え方として4番の「法令で定められているレベルを守っていればいい」、法令のレベルだけを守っていればいいわけではないから、じゃあ2か3のどちらかという方が多いかなと思います。

2の(3)新しいごみ処理施設に求めるものとして、リサイクルと再生利用について、1はコストがかかるとはっきり言っているんですね。3はコストをかけて行くべきではないと言い切っています。よって、総合的に判断されればいいというマイナスのことが書いていない2に流れやすいと思います。もし変えるとしたら、マイナスのところを少し削るという方法はあるのかなと。

資料については、まだ決まっていないのであれば、当然「案」とすべきですし、今後も話し合っていくという前提で資料をお作りいただければと思います。

委員長： 今ご指摘ありましたように、資料-2、特に対象ごみ種は新しい施設ではこうだろうということで、これは「案」として書くべきだということです。それは確かにそうです。

ただ、先ほど指摘があった、減量等推進審議会との関係については、宝塚市さんは大変バランスが取れているなと私も感心しております、設備としてはどういったことができるのか、設備の能力はこういうものがあるからと、それを先にメニューとして示しておいてから、あるいはそれを十分に理解してもらってから、ごみの分別なり、リサイクルなり、それ以外の方法を考えるという、そういう姿勢があるんですね。だから、今の状態でいいと思います。

事務局： 申し訳ございませんでした。事務局案として「案」が抜けておりましたことをお詫びいたします。今申しましたように、「案」でございますので、皆様のご意見をお願いしたいと思います。

それともう一つ、アンケートの件ですが、初めに事務局の説明のときにもありましたように、4月に発送したいという思いがございます。皆様のご意見を今日お聞かせいただけましたので、事務局で練って、最後は委員長と調整させていただきたいと思いますので、ご理解をよろしく願いいたします。

K委員： あと1点だけすみません。非常に大きなところで確認しておきたいことがありま

して、事務局にお尋ねいたします。現在の施設において、ストックマネジメント、いわゆる延命化をする、こういう計画というのは織り込まれて進んでいるのでしょうか。

事務局： はい。プラントの部分は15年とかよく言われるのですが、既に27年たってございます。平成21年の定期検査の中でこれを延命化していくにはどうしたらいいのかという調査もいたしまして、その後、長寿命化計画、保全計画を作りまして、24年から基幹改良工事を3年間させていただきました。そこで今のところ35年まで何とかこういう形でもたせていこうという計画で進んでございます。

K委員： ありがとうございます。それに関わることですが、コンクリート建造物は概ね50年と言われております。その中に収まっているプラントは一般的に20とか25年。これを長寿命化するというプランを積極的に取り込んでいくことによって現在でも35年使おうとしている。もう28年過ぎている。交付金を受けることに対して、宝塚市地域循環型社会形成推進地域計画、平成24年で改版されていまして、第2期計画期間が今月で終わりになるんです。これに沿った形での交付金があるわけですね。先ほど言われたような長寿命化を図る施策も必要だとしっかりと見据え、計画を更新して行ってほしいと思います。

委員長： 設備の更新、維持、延命化とか、修理とかそういった話ですが、運のいいことこちらの施設は非常にいいんです。こちらの施設で実際に修理・点検を行う方から聞いたのですが、まだまだ使えますということ聞いております。常識から判断すると、あと10年ぐらいで建て替えとなるのですが、それにしても他の自治体の状況と比べると非常に状態が良いんです。コンクリートの方はわかりませんが、金属の部分については、すいぶん修理されたのでしばらく使えると聞いております。先程ご意見いただいたように長寿命化については、本当にそのとおりだと思います。

3 その他

委員長： 次回スケジュールを決めて終わりたいと思います。

事務局： 次回は施設見学を予定しております。豊中市伊丹市クリーンランドが3月15日に竣工で、新しい施設ができておりますので、見学に行かせていただきたいと考えております。日程は4月中旬で調整中です。また決まり次第、ご連絡させていただきます。

時間帯につきましては昼からという形を考えていきたいと思っています。

委員長： 会議のほうはいつぐらいですか。

事務局： 第4回委員会は、スケジュール案では当初は6月中旬と考えていたのですが、可能であればもう少し早めた形で調整させていただけたらと考えております。アンケートの結果を4月に回収して、5月中旬にはとりまとめたいと考えておりますので、5月下旬あたりで第4回を開催したいと思っております。

委員長： またご連絡ください。

委員長： では、終わりますでしょうか。皆様、どうも長時間にわたりましてありがとうございました。

平成28年(2016年)3月1日

議事録署名人

久保田久男



議事録署名人

池田隆之



議

長

渡辺信久



